

豊見城市饒波「饒波農用地利用改善組合」

生産
部門

農業後継者による都市近郊のふるさとづくり (平成16年度認定)



豊見城市は近年急速に市街化が進行しつつある。当該地区は饒波集落の東方に位置し、約52ヘクタール規模の県営土地改良事業による農業基盤整備が行われた。

平成4年度の「熱帯果樹等生産モデル整備事業」をスタートに、平成13年度までに13次に及ぶ補助事業の導入と農家独自資金によって次々とハウス（温室）が建設され、今日では、一面に広がるビニールハウス群を市街地が取り囲むという「市街地と農業集落・施設が見事なまでに調和した、独特な景観」を創り出している。

このハウス群ではマンゴー、パパイア等の熱帯果樹とトマト、キュウリ、ゴーヤー、水耕小松菜等の果菜類が生産され、豊見城市農業の中核をなしている。

豊見城市は、平成12年にマンゴーの拠点産地として指定を受け、県内第2位の生産量を誇るが、饒波地区は多くを占めている。また、トマトの指定産地として、天敵利用による減農薬栽培にも積極的に取り組み、「安心・安全な農産物」の生産に意欲を燃やしている。当該地区は、後継者も多く、若者を中心に毎月1回の勉強会や年1回の組合員全員の先進地視察研修会等、研鑽に努めている。

